

小児の病気だけでなく，成人疾患も幅広く学べる 『急性疾患の初期対応』に重点をおいた教育プログラム

小児科では急性疾患が多く，全身を診ます！筑波大学小児科では，1年目に大学病院の信頼できる指導医から1対1で医師としての基礎をしっかりと学び，2年目に地域基幹病院で救急疾患や common diseases を集中して研修する「小児・救急医養成コース」を用意しています。

急性疾患の初期対応を重点的に学ぶ「小児・救急医養成コース」

まず医師としての姿勢、診療の進め方、文献検索、学会発表などを筑波大学小児科で3か月間学びます(A)。2年目の小児科研修、救急研修は、県内でも救急患者が多くかつ指導体制が充実した地域基幹病院を設定しています。症例の豊富な病院で「小児」と「救急」を連続して6か月間、腰を落着けて研修することで、小児と成人の急性疾患を幅広く学ぶことができます(B)。24か月間のうち残りの15か月間は通常のプログラムと同様に、各人の希望に応じて内科系・外科系診療科をローテーションします。

	J1												J2											
	大学病院			大学 or 関連病院			関連病院			地域基幹病院			地域医療（開業医含む）			地域医療ができる病院								
	4	5	6	7	8	9	10	11	12	1	2	3	4	5	6	7	8	9	10	11	12	1	2	3
B1	小児科 (A)			内科 6ヶ月						選択 1			小児科・救急 (B)			地域医療			必選 1	必選 2	必選 3			
B4	小児科 (A)			内科 3か月			必選 1	必選 2	必選 3	小児科・救急 (B)			内科 3か月			地域医療	選択							
G1	小児科 (A)			内科 6ヶ月						選択 1			小児科・救急 (B)			地域医療			必選	必選	必選			

※1年目，2年目の中は順不同 ※必選2は小児科・小児外科以外を選択できる ※必選1（外科系）は小児外科を推奨 ※必選3は精神科を推奨
※G1の必選のうち最低1つは大学病院が必須

2年目の研修予定先地域基幹病院 (H23.11月頃決定の予定)

筑波メディカルセンター病院

ER型の救命救急センターが設置されており，救急部，総合診療部，小児科が中心となって初期対応に当たります。小児科は common disease を中心に，重症患者も対応しており，筑波大学附属病院小児科とも連携し，様々な疾患の診療を行っています。

土浦協同病院

救急は初期対応だけでなく，呼吸不全，循環不全，多発外傷などの集中治療を継続して行います。麻酔科研修も並行して行う予定です。小児科も1~3次全ての救急医療に対応しており，PICUを備え，重症小児の集中治療を行っています。

茨城県立こども病院 + α

小児科研修はこども病院の総合診療部で common disease を含め，幅広い疾患の患者さんの診療に当たることができます。救急研修については隣接する水戸済生会総合病院と連携して研修を行います。6か月間の研修期間中は，こども病院の宿舎が利用できます。

茨城県の Dr.ヘリの運航は，水戸済生会と県立こども病院が担当しています。筑波メディカルセンターは日本医大北総病院の Dr.ヘリと連携しています。



興味のある方はぜひご連絡ください。ちょっと疑問に思っているんだけど・・・と思うことでも結構です。また，飲み会や食事会も多くあります。ぜひ参加して後期研修医，指導医と話してみてください。皆さんと一緒に研修できることを楽しみにしています。

小児病棟のクリスマス会



小児科と救急科の研修をあわせて6ヶ月間地域基幹病院で行ないます。



小児科救急コースのキックオフミーティング

筑波大学大学院人間総合科学研究科 疾患制御医学専攻小児内科学分野

〒305-8575 茨城県つくば市天王台 1-1-1 研修担当教員：大戸達之
Tel 029(853)5635 月～金 9-18時 Fax 029(853)8819
pediatr@md.tsukuba.ac.jp
<http://www.md.tsukuba.ac.jp/clinical-med/pediatrics/index.html>

【小児科レジデント研修担当】

金井 雄 yu-kan@ga3.so-net.ne.jp
齋藤 誠 msaito@tokai.or.jp